

株主メモ

| | |
|-----------------------|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 基準日 | 定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めることがあります。 |
| 公告方法 | 電子公告 (https://ncsa.jp) |
| 上場金融商品取引所 | 東京証券取引所 市場第二部 |
| 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 |
| 株主名簿管理人事務取扱場所 | 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (郵便物の送付先) | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (電話照会先) | ☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル) |
| (インターネット) (ホームページURL) | https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html |
| (よくあるご質問 (FAQ)) | https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal |

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、お取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。なお、お手続き方法やよくあるご質問は、上記「よくあるご質問(FAQ)」サイトで確認いただけます。

第55期定時株主総会の決議結果について

2021年6月22日開催の当社株主総会において報告及び決議された内容につきましては、当社ホームページ (<https://ncsa.jp/ir/shareholder>) に掲載していますので、ご参照ください。

■ ホームページのご案内

ホームページで当社の事業活動、サービス案内、投資家情報などに関する詳しい情報をご覧ください。ぜひご活用ください。



<https://ncsa.jp>

NCS&A REPORT

第55期 | 報告書

2020年4月1日～2021年3月31日

Grow on with Clients,
now and forever



新たな技術に果敢に挑戦しながら、 しなやかな発想で価値あるITサービスを 提供し続ける企業へ

株主の皆様には、平素より格別のお引き立てとご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2021年3月期(2020年4月1日～2021年3月31日)の連結の業績と取り組みの状況をご報告申し上げます。

新型コロナウイルス感染症対策への対応につきまして、当社グループでは、日々変化する状況に応じて、お客様、ビジネスパートナー、社員及びその家族の安全確保・感染予防、感染拡大防止を最優先する方針のもと、社会インフラを担う企業の一端として事業継続に向けた対応を随時実施しております。



代表取締役社長 辻 隆博

**Grow on with Clients,
now and forever**

CONTENTS

| | |
|-------------|------|
| トップメッセージ | P.01 |
| 新中期経営計画 | P.07 |
| 連結財務諸表(要約) | P.09 |
| 会社の概況/株式の概況 | P.10 |

第55期連結業績

| 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する 当期純利益 |
|------------------|---------------|---------------|---------------------|
| 197億51百万円 | 8億30百万円 | 9億58百万円 | 7億89百万円 |
| [前期比 26億56百万円減収] | [前期比 66百万円減少] | [前期比 55百万円減少] | [前期比 3億43百万円減少] |

- Q 当期(2021年3月期)の経営環境と取り組みについて説明してください。
- A 先行き不透明な状況の中、安定した収益基盤の確立に向け、積極的な投資と受注活動を推進いたしました。

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により経済活動が大幅に制約を受け、サービス業を中心に厳しい状況となりました。新型コロナウイルス感染拡大の波は断続的に発生しており、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

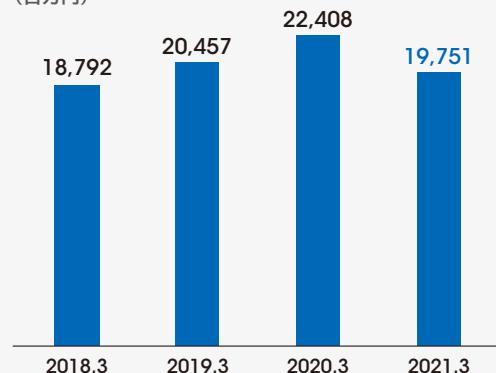
当社グループが属する情報サービス産業におきましては、AI、IoT、ビッグデータ、RPA(ロボティックプロセスオートメーション)等の技術を利用して、新しい製品やサービス、新しいビジネスモデルを通じて価値を創造し、競争上の優位性を確立する「デジタルトランスフォーメーション(DX)」や、経済産業

省が警鐘を鳴らしている「2025年の崖」問題(老朽化・肥大化・複雑化及びブラックボックス化した既存システムがDX推進の足かせとなり、ひいては国際競争への遅れや経済停滞に繋がる)などへの関心が高まっております。また、このたびの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い社会のあり方が大きく変化し、ITを活用したテレワーク化やコミュニケーションツールの普及が急速に進みました。その一方で、新型コロナウイルスの感染動向など先行きへの警戒感から、企業のIT投資に対する慎重さが見受けられました。

このような環境のもと、当社グループは、前期に引き続き「主力ソリューションの商品力強化」及び「営業力の強化」を両輪とした「トップライン(売上)の拡大」を基本方針とし、安定した収益基盤の確立に向け、積極的な投資及び積極的な受注活動を推進いたしました。

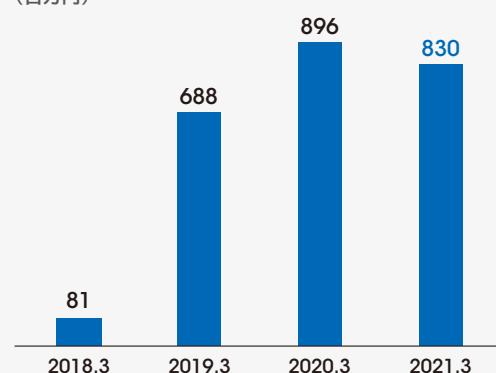
売上高

(百万円)



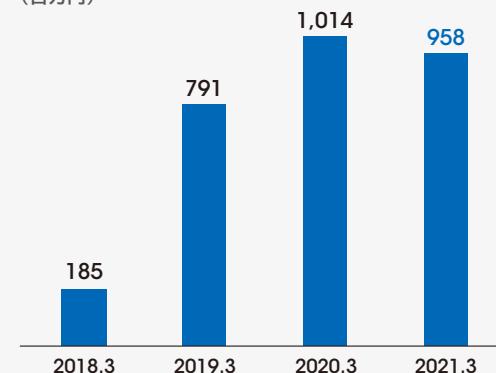
営業利益

(百万円)



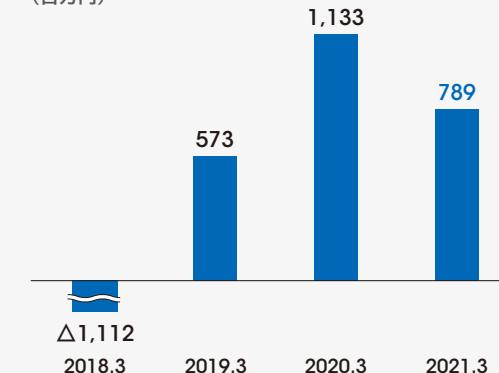
経常利益

(百万円)



親会社株主に帰属する当期純損益

(百万円)



- Q 当期(2021年3月期)の成果を聞かせてください。
- A 主カソリューションを中心に売上は堅調に推移するも、中堅・中小企業マーケットにおいては、厳しい受注環境が続きました。

自社開発の情報システム可視化ソリューション「REVERSE PLANET(リバースプラネット)」につきましては、企業のDX推進に寄与する商品として、既存顧客の深耕やアライアンス先との協業を進めるなど受注活動を強化しております。当期におきましては、大手金融機関の勘定系システムのプログラム可視化ツールとして正式導入されるなど、売上は堅調に推移いたしました。

同じく企業のDX推進に寄与するサービスとして展開しているマイグレーションサービスにつきましては、「AAA(トリプルエー)」、「AIRS(エアーズ)」といった自

社開発ツールを活用し、情報システム資産の移行サービスを「安全・確実・低コスト」に提供しております。当期におきましては、進行中の外資系保険会社向けの大型案件が順調に進捗するなど、新型コロナウイルス感染症拡大の影響は最小限に留まり、売上は堅調に推移いたしました。

中堅・中小企業マーケットにおきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、厳しい受注環境が続き、サービス業向けを中心に受注、売上ともに減少いたしました。また、システム機器等販売につきましては、テレワーク用のPC需要があったものの、主に前期のWindows7のサポート終了に伴う更新需要の反動により、受注、売上ともに減少いたしました。一方、生産管理システム「Factory-ONE 電腦工場」をはじめとした製造・流通業向け基幹業務パッケージの導入・カスタマイズ案件につきましては、積極的な受注活動により大型の受注が増加し、売上が伸びました。

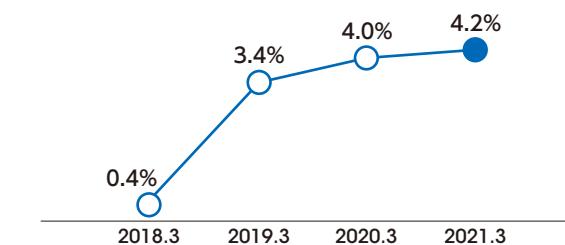
地方自治体向けソリューションにつきましては、自社製品である確定申告受付支援システム「The 確定申告V(ファイブ)」の販売が堅調に推移いたしました。また、政府の緊急経済対策に関連し、自社開発したパッケージソフトウェアの販売・導入が進み、売上及び利益に貢献いたしました。

- Q 業績について説明してください。
- A 減収、減益となるも収益性は改善しました。

当連結会計年度の売上高は、前期に比べ26億56百万円(11.9%)減収の197億51百万円となりました。利益面につきましては、営業利益は減収の影響により前期に比べ66百万円減少の8億30百万円となりましたが、プロジェクト統制強化によるプロジェクト損益の

改善、各事業の需要に応じた柔軟な人材配置の実施によるコスト削減等により、売上高営業利益率は前期に比べ0.2ポイント上昇し4.2%となりました。経常利益は前期に比べ55百万円減少の9億58百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期に計上していた一過性収益(違約金収入1億55百万円)がなくなったこと及び税金費用が増加したことにより前期に比べ3億43百万円減少の7億89百万円となりました。

売上高 営業利益率



Q 新型コロナウイルス感染症対策について聞かせてください。

A 感染防止に努めるとともに、事業継続に向けた対策を行っています。

新型コロナウイルス感染症への対応といたしましては、社長直轄の「新型コロナウイルス感染症対策本部」を立ち上げ、日々変化する状況に応じて、社員及びその家族の安全安心を確保すべく、感染防止に努めました。併せて、社会インフラを担う企業的一端として、事業継続に向けた対策を随時実施しております。

Q 2022年3月期の取り組みについて聞かせてください。

A 中長期的に持続的な成長に取り組めます。

このたびの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い社会のあり方が大きく変化し、ITを活用したテレワーク化やコミュニケーションツールの普及が急速に進みました。また、デジタルトランスフォーメーション(DX)の浸透が進み、企業におけるIT活用の重要性が再認識されつつあり、ウィズコロナ・アフターコロナ時代に向けてIT投資は中長期的に拡大していくものと認識しております。

このような環境のもと、当社グループは、「収益性の安定と向上」及び「社員が生き生きと働ける会社」を基本方針に、中長期的に持続的な成長を実現するた

め、以下の施策を実施してまいります。

- ・顧客規模に応じた製品化、部品化及びクラウド化を進め、主力ソリューションの高収益化を図ります。また、可視化・マイグレーションビジネスを中心に、商品力強化のための投資を積極的に行います。
- ・クラウドビジネスのさらなる加速を見据え、顧客に提案ができるクラウドサービス技術者の育成を強化いたします。
- ・PMO(プロジェクトマネジメントオフィス)の活動をより一層有効なものとするため、解決すべき課題を開発現場との間で共有し、共に問題解決にあたります。また、上流工程の徹底チェックとコストマネジメントを強化し、品質向上とプロジェクト損失の抑制を図ります。
- ・全ての社員がより長く生き生きと働ける会社となるために働き方改革を継続し、社員が働きやすくなるような環境改善に取り組めます。また、人材マネジメントを強化し、組織と社員のパフォーマンスの最大化を図ります。
- ・サステナビリティの取り組みを強化いたします。オフィスの移転・分散化やテレワークのさらなる推進を行い、通勤による環境負荷の低減や紙使用量・電力使用量の削減を図ります。また、「社内スタートアップ制度」を通じてサステナブルな事業アイデアにも積極的に投資してまいります。
- ・自然災害やパンデミックを想定したBCP(事業継続計画)を検討・策定するとともに、災害対策としての社内IT環境、オフィス環境の見直しや必要物資の備

蓄の強化を行ってまいります。

- ・NCS&Aグループ各社の事業シナジーの追求、コスト構造改革を進め、グループ経営の総合力を高めます。

Q 2022年3月期の見通しについて聞かせてください。

A 新型コロナウイルスの感染拡大の影響は、今後も断続的に発生するものと認識しています。

新型コロナウイルス感染症の動向につきましては、依然として収束の兆しが見えておらず、未だ状況は不透明であると認識しております。当社グループでは、業績予想の作成にあたっては、新型コロナウイルス感染症による影響が2021年9月末(2022年3月期第2四半期末)まで継続し、その後、徐々に正常化に向かっているものと仮定しております。

また、2022年3月期第2四半期において実施を予定しております当社東京本社の事務所移転に伴い、その事務所移転関連費用として特別損失約1億円が発

2022年3月期 連結業績予想(前年同期比)

| | |
|-----------------|----------------|
| 売上高 | 200億円 (1.3%増) |
| 営業利益 | 8.5億円 (2.4%増) |
| 経常利益 | 9.6億円 (0.1%増) |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 6.5億円 (17.7%減) |

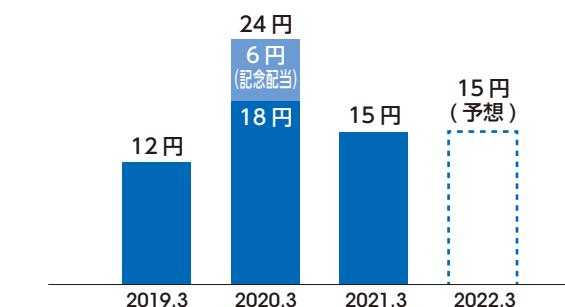
生する見通しです。

以上により、翌連結会計年度(2022年3月期)の連結業績につきましては、売上高200億円(前年同期比1.3%増)、営業利益8億50百万円(同2.4%増)、経常利益9億60百万円(同0.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益6億50百万円(同17.7%減)を見込んでおります。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

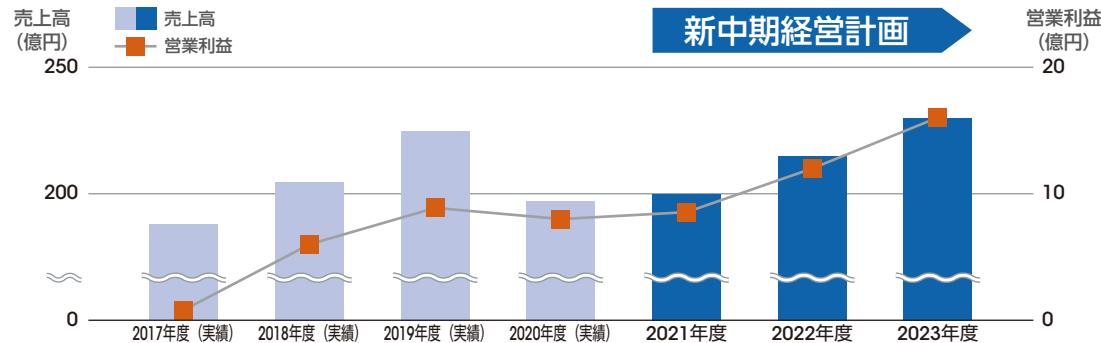
上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

配当金の推移



2021年度から2023年度を対象とする 新中期経営計画がスタート!!

●新中期経営計画における目指す姿



●新中期経営計画の方向性

社是

コンピューターは社会に奉仕する

経営理念

私たちは、確かな技術で
新たな価値を創造し、社会に貢献します

行動指針

私たちは宣言します
夢と未来にむかって、あたらしさへ挑戦します
お客様の心の声に、しなやかな発想で応えます
確かな判断と責任のもと、すばやく行動します

企業メッセージ

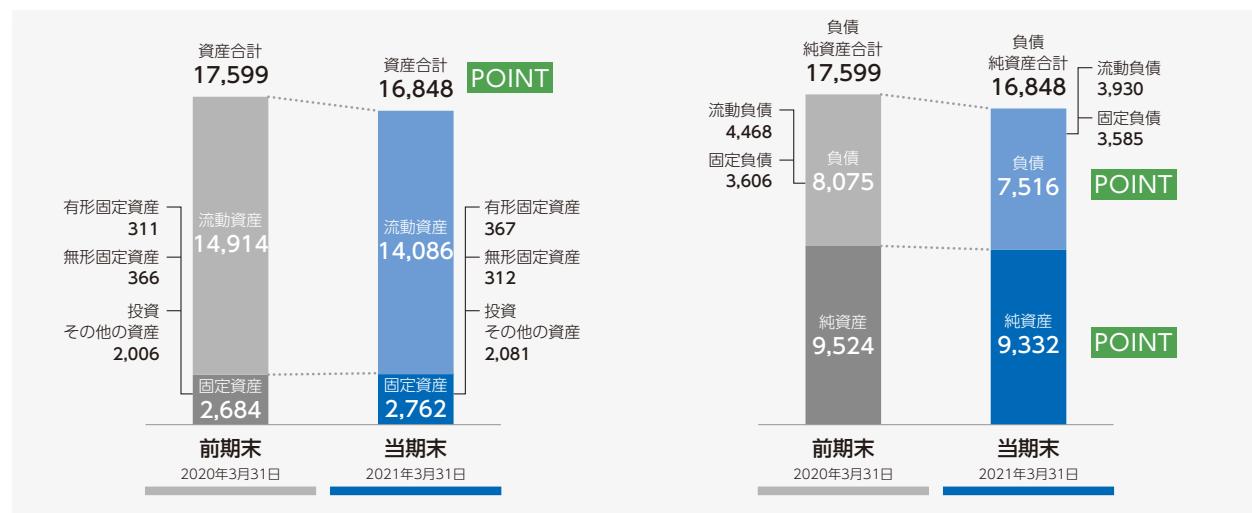
**Grow on with Clients,
now and forever**

NCS&A 2021-23年度 中期経営計画

| | |
|----------|--|
| 目指すべき企業像 | 私たちは、確かな技術で新たな価値を創造し、社会に貢献します |
| 中計の位置づけ | <ul style="list-style-type: none"> ●収益性の安定と向上 ●前中計最終年度の再チャレンジと100年企業に向けた変革の開始 ●社員が生き生きと働ける会社に |
| 事業体制 | <ul style="list-style-type: none"> ●製販分離でそれぞれ強化 ●3本部 (開発・営業・管理) と経営戦略室が密接に連携 |

| | | |
|------|-------|---|
| 基本方針 | 事業の観点 | 筋肉質化・高収益率化の追求 <ul style="list-style-type: none"> — キラーソリューション (REVERSE PLANET, AAA, AIRS等) の確立 — 既存事業の高収益率化 (プライム化 / サービス化 / プロジェクト損失の防止) — 効果的な営業・案件遂行の実現と新規事業開発の加速化 |
| | 人財の観点 | 多様な人財を惹きつける新しい働き方の確立 <ul style="list-style-type: none"> — 働き方改革の継続 — 人財のスキル強化 (開発と顧客開拓を牽引する人財の育成) |
| | 会社の観点 | 持続可能な企業体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> — 管理本部改革の加速 — リスクマネジメントの強化 — スタートアップの強力推進 — 次世代経営人財・リーダー人財の育成 |

連結貸借対照表 (単位:百万円)



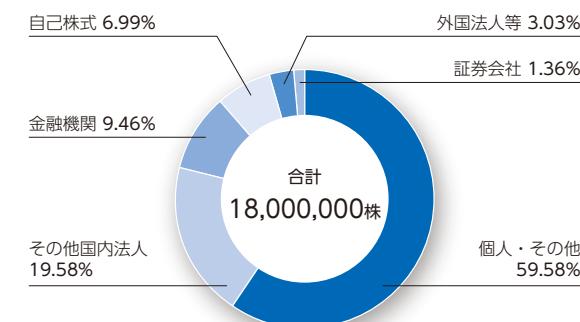
会社概要 (2021年3月31日現在)

商号 NCS&A株式会社(英文表記:NCS&A CO.,LTD.)
 設立 1966年9月21日
 代表者 代表取締役社長 辻 隆博
 資本金 37億7,510万円
 従業員数 1,335名(連結)
 事業所 ■本社 〒540-6316 大阪市中央区城見1丁目3番7号
 ■東京本社 〒135-0061 東京都江東区豊洲5丁目6番36号
 ■名古屋支社 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号
 子会社 ■エブリ株式会社
 ■NCSサポート&サービス株式会社
 ■株式会社フューチャー・コミュニケーションズ
 ■恩愛軟件(上海)有限公司

株式の状況 (2021年3月31日現在)

発行可能株式総数 60,000,000株
 発行済株式の総数 18,000,000株
 株主数 3,875名

所有者別株式数分布

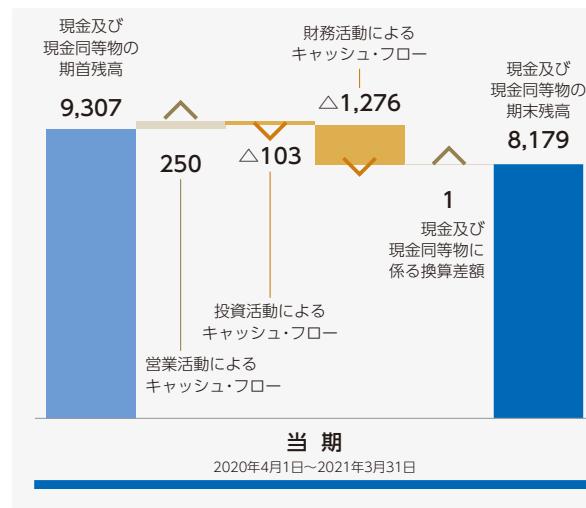


大株主(上位10名)

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|--------------|---------|---------|
| 株式会社ZEN | 1,851 | 11.05 |
| 明治安田生命保険相互会社 | 1,061 | 6.34 |
| 丸山 幸男 | 994 | 5.93 |
| NCS&A従業員持株会 | 601 | 3.59 |
| 小路口 謙治 | 400 | 2.39 |
| アイ・システム株式会社 | 400 | 2.38 |
| 株式会社クリナム | 398 | 2.37 |
| 梶川 融 | 397 | 2.37 |
| 日本金銭機械株式会社 | 381 | 2.27 |
| 山田 欣吾 | 350 | 2.09 |

(注)当社は自己株式1,258千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。持株比率は自己株式を控除して計算しております。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円) POINT



POINT

資産 自己株式の取得や配当金の支払いにより、現金及び預金が大きく減少したことなどにより、総資産は7億50百万円減少しました。

負債 未払消費税を含む未払金や未払法人税等が減少したことなどにより、負債は5億58百万円減少しました。

純資産 親会社株主に帰属する当期純利益を計上しましたが、配当金の支払いや自己株式の消却などにより、純資産は1億91百万円減少しました。

キャッシュ・フロー 税金等調整前当期純利益を計上しましたが、財務活動によるキャッシュ・フローで自己株式の取得や配当金の支払いなどにより、現金及び現金同等物は11億28百万円減少しました。